

トビウオ通信 (H18 第 8 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《 平成 18 年度下半期 浮魚中長期漁況予報 》

平成 18 年 10 月 24、25 日に下関市において、東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議が開催されました。また、今月 13 日付けで独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所より第 2 回日本海漁況予報が発表されました。今回はこれらの内容をもとに、平成 18 年度後期（11 月～翌年 3 月）の中・長期的な漁況（来遊量）の予測をします。

漁況（来遊）予測（H18 年 11 月～翌 3 月）

マアジ：前年、平年を下回る

マサバ：前年を下回り平年並み

カタクチイワシ、ウルメイワシ：平年並み

マイワシ：極めて少ない

マアジは前年、平年を下回る？

平成 18 年 1～9 月までの対馬周辺～東シナ海における大中型まき網漁業によるマアジの漁獲量は 2 万 9 千トンで、平年同時期（過去 5 カ年平均）の 90%、前年同時期の 74%と低調に推移しました（図 1）。今後の漁況も、これまで当歳魚（H18 年生まれ）の漁況が低調に推移していることから、低調であった前年並みに推移すると予測されています。

島根県においても、春季以降の漁況は低調に推移し、1～9 月までの漁獲量は約 1 万 5 千トンと平年同時期の 69%、前年同期の 74%に留まりました。

今後の島根県沖におけるマアジの見通しですが、夏季に水産技術センターが鳥取県等と共同で実施した中層トロール網による加入量調査の結果（詳細は同報 4 号参照）から、今後の漁獲の主体となってくる当歳魚の資源水準は、昨年よりはやや高いものの来遊量の多かった平成

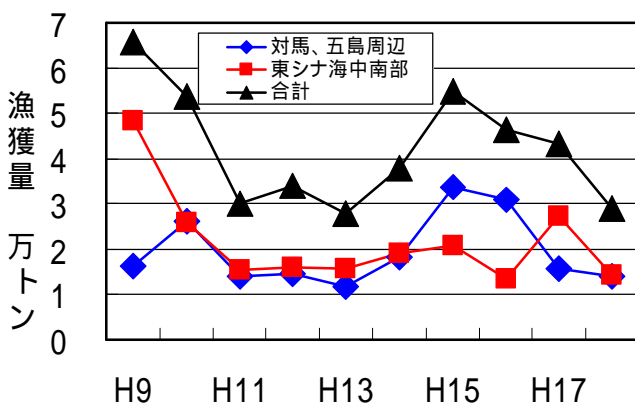


図 1 対馬周辺～東シナ海における大中まき網によるマアジ漁獲量 (H18は9月までの集計値)

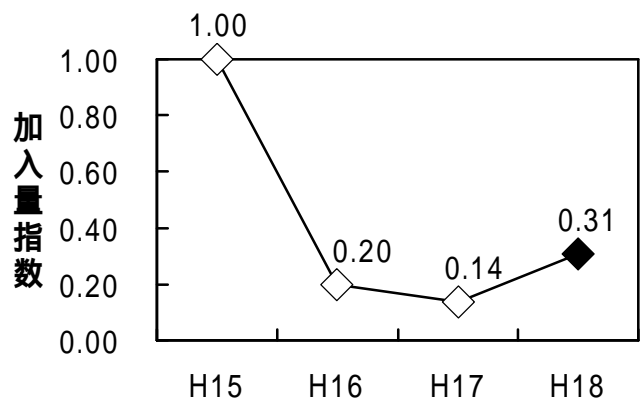


図 2 山陰沖海域におけるマアジの加入量指数 (資料:鳥取県水産試験場)

15年と比較すると依然として低水準にあると推定されている(図2)ことから、今後の当歳魚の来遊量はしばらくは低位で推移するものと予測されます。

2歳魚(H17年生まれ)の資源水準についても、前年(H16年生まれ)より低いと予測されていること等から、今後のマアジ全体の来遊量は漁場形成次第で変化する可能性はあるものの、前年、平年を下回ると考えられます。

マサバも前年を下回る?

平成18年1~9月までの対馬周辺~東シナ海における大中まき網漁業でのマサバの漁獲量は約1万6千トンで、平年同時期の87%、前年同時期の82%とマアジと同様に低調に推移しました(図3)。

島根県においても、1~9月までの漁獲量は約3千6百トンで、平年同時期の96%、前年同時期の86%と比較的低調に推移しました。

今後の島根県沖におけるマサバの見通しですが、秋以降漁獲に加わる0歳魚(H18年生まれ)の資源水準は、東シナ海~日本海西南海域においては、これまでの漁況の経過から昨年と同程度と推定されており、1歳魚(H17年生まれ)の資源水準は前年をやや下回り、2歳魚(H16年生まれ)は前年を上回ると推定されています。今後の漁獲主体は1歳魚と0歳魚ですので、今後の漁況は比較的好調であった前年を下回り、平年並みになると予想されます。

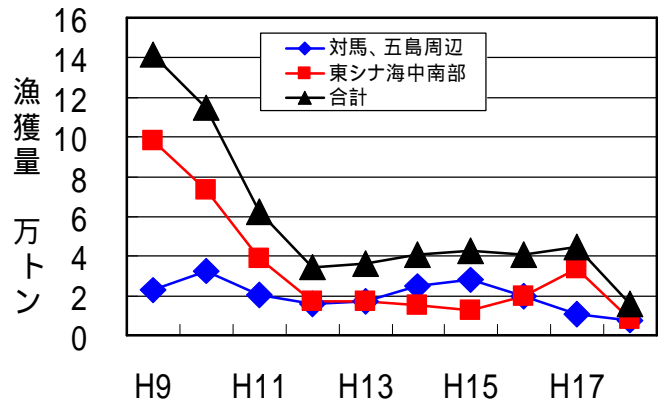


図3 対馬周辺~東シナ海における大中まき網によるマサバ漁獲量(H18は9月までの集計値)

カタクチイワシ、ウルメイワシともに平年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成13年に漁獲が大きく落ち込んで以降5千~1万トン前後を増減しながら低調に推移していますが、平成18年1~9月までの漁獲量は約9千トンで、平年同時期の135%、前年同時期の145%とやや増加傾向となっています(図4)。今後の島根県沖におけるカタクチイワシの見通しですが、九州沿岸から日本海にかけての海域では、今年の春季発生群の加入は良かったものの秋季発生群の発生量はそう多くないと推定されていることから、今後の来遊量は概ね平年並みに推移すると考えられます。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、ここ2年好調に推移していましたが、平成18年1~9月までの漁獲量は約2千5百トンで、平年同時期の83%、前年同時期の61%に留まりました(図4)。今後の島根県沖におけるウルメイワシの見通しですが、九州沿岸から日本海にかけての海域では来遊量が平年並みで低水準であると推測されていることから、今後の来遊量はカタクチイワシと同様に前年を下回り、平年並みであると考えられます。

マイワシ資源は依然として極めて低水準

島根県の中型まき網における平成18年1~9月までのマイワシの漁獲量は約1,400トンで、平年同時期の約5倍、前年同時期の約2倍と好調に推移しましたが(図4)、依然として極めて低い資源状態にあります。今後もまとまった漁場形成は見られず、散発的に沿岸域で漁獲される程度と考えられます。

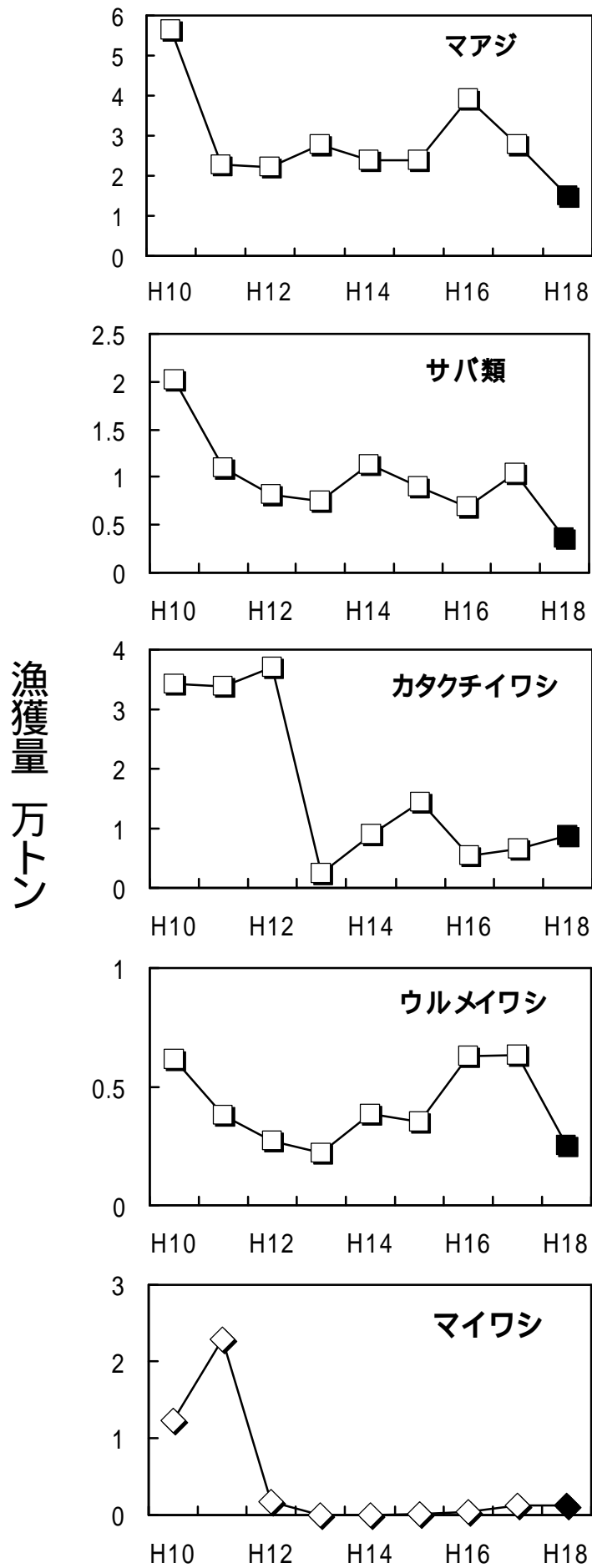


図 4 島根県中型まき網による浮魚類の漁獲量
(H18 は 9 月までの集計値)